

鶴岡市学校の在り方検討委員会 第2回会議資料

令和8年10月29日
教育施設在り方検討室

1 学校の在り方(適正配置)の基本的な考え方

適正な学校規模に改善し、鶴岡らしい教育を実践することで市の教育目標である「ふるさと鶴岡を愛し未来をひらく、いのち輝く人づくり」の実現を目指す

- 1 **適正な学校規模への改善**: 小学校・中学校ともに「6～18学級、複式学級なし」を標準とし、協働的な学習や児童会・生徒会活動、学校行事等が効果的にできる集団規模を実現する。
- 2 **中学校統合を優先**: 人間関係の固定化を防ぎ、クラス替えができる／集団的な活動(生徒会・行事・部活動)が効果的にできる集団編成と教員定数の確保を考慮し、中学校の適正化を優先する。
- 3 **小学校は同じブロック内で統合**: 小中一貫教育を効果的に推進するため、小学校の統合は同じ中学校ブロック内の学校とする。
- 4 **特性や距離等を考慮**: 統合先は地域・学校の特性や距離等を考慮して検討する。
- 5 **小学校を地域(中学校区)に残す**: 中学校が閉校した場合、地域の希望があれば、地域に小学校1校は残す。
- 6 **大規模な改修・改築を伴う統合はしない**: 現在ある校舎を有効に活用した統合を検討する。
- 7 **小規模特認校制度は適正配置検討では考慮しない**:
小規模特認校制度は、学校選択制となり、他校の学級編制にも影響を及ぼすこと、また、「ふるさと鶴岡を愛する子ども」を育成するために、自分の住んでいる地域での学習を大切にすることから、適正配置の検討の際には考慮しない。ただし、中学校が統合し、そのブロックに唯一残る小規模な小学校については、小規模特認校を検討していく。
- 8 **分散進学の段階的な解消**: 一つの小学校から同じ中学校に進学するよう学区の見直しを進める。

2 学校適正配置素案(R14統合想定)

ブロック	案	検討対象校	統合相手校	通常 学級 数 (R14)	児童生 徒数 (R14)	使用校舎	築年 数 (R8)	健全 度 (R8)	普通 教室 数	最長 通学 距離	備考
一中	第1案	上郷小	大泉小	6	119	大泉小	38	C	10	9.5km 中山	上郷小に隣接し、ブロック内で一番近い。
	第2案	上郷小	朝陽六小	15	426	朝陽六小	50	D	27	11.7km 中山	大泉小学区を挟んで飛び地となることが 難点。
三中	第1案	黄金小	朝陽一小	14	375	朝陽一小	17	B	24	8.3km 谷定	黄金小に隣接し、ブロック内で一番近い。
	第2案	黄金小	斎小	6	126	斎小	37	C	6	7.3km 谷定	黄金小に隣接し、ブロック内で二番目に近 い。
五中 (豊浦)	第1案	西郷小	大山小	14	348	大山小	16 56	A D	20	15.3km 堅苔沢	校区が沿岸部であるという共通した地域 特性がある。 五中と豊浦中を統合することを前提に、 豊浦小を加えた検討対象校と大山小を統 合する案。
		湯野浜小									
		豊浦小									
	第2案	西郷小	—	6	116	湯野浜小	23	A	7	7.2km 茨新田	隣接する検討対象校での統合案。
		湯野浜小									
	参考案	西郷小	大山小	12 6	304 182	鶴岡五中	29	C	16	8.6km 茨新田	教室数が不足。 中学校の将来的な1学年単学級化が懸念 される。
湯野浜小		鶴岡五中									
豊浦 (五中)	第1案	豊浦中	鶴岡五中	7	208	鶴岡五中	29	C	16	16.1km 堅苔沢	豊浦中に一番近い五中と統合する案。 校区が沿岸部であるという共通した地域 特性がある。 ※五中の将来的な生徒減少の対策になる。
	参考案	豊浦小	—	5 3	44 26	豊浦中	32	C	6	4.3km 堅苔沢	教室数が不足。 小学校の複式学級が解消しない。 中学校の1学年単学級が解消しない。
		豊浦中									

2 学校適正配置素案(R14統合想定)

ブロック	案	検討対象校	統合相手校	通常 学級 数 (R14)	児童生 徒数 (R14)	使用校舎	築年 数 (R8)	健全 度 (R8)	普通 教室 数	最長 通学 距離	備考
羽黒	第1案	羽黒小	広瀬小	7	176	広瀬小	37	C	9	11.9km 上川代	ブロック内での統合。 比較的新しい広瀬小の校舎を使用。
	参考案	羽黒小	広瀬小 羽黒中	7 6	176 135	羽黒中	14	A	9	9.0km 上川代	教室数が不足。
櫛引	第1案	櫛引東小 櫛引南小	櫛引西小	8	159	櫛引西小	32	D	10	8.9km たらのき 代	櫛引中ブロック内での統合であり、複 式学級が解消することに加えて、2学 級でクラス替えのできる学年も編制 される。
	参考案	櫛引東小 櫛引南小	櫛引西小 櫛引中	8 5	159 126	櫛引中	26	C	12	8.6km たらのき 代	教室数が不足。 中学校の将来的な1学年単学級化が 懸念される。
朝日 (櫛引)	第1案	櫛引中 朝日中	—	6	152	櫛引中	26	C	12	29.0km 大鳥	隣接する検討対象校での統合。 統合中学校進学により、小学校までと 違った人間関係が生まれる。
	参考案	朝日中	あさひ小	6 3	72 26	朝日中	11	A	3	20.5km 大鳥	教室数が不足。 中学校の1学年単学級が解消しない。
温海	第1案	あつみ小	—	6 3	95 44	温海中	29	C	12	18.5km 戸沢	他の中学校との統合となると、通学距 離・時間が増大するため、同一ブロッ ク内での小中一貫校とするもの。 小学校では複式学級が解消する。中 学校では1学年1学級となるが、異学 年交流などにより、少人数のデメリッ トを最小化する。 ※温海中と鶴岡五中が統合した場合は、 最遠集落の平沢の通学距離が43.3kmで ある。
		鼠ヶ関小									
		温海中									

※「健全度(R8)」は、鶴岡市学校施設長寿命化計画(R8.3改定)において、「屋根・屋上」、「外壁」、「内部仕上」、「電気・機械設備」を部位別で評価付けした上で、各項目の評価結果を集計し、施設の健全度を点数評価したもの。(A⇒80点以上、B⇒70点以上～80点未満、C⇒40点以上～70点未満、D⇒40点未満)

3 学校適正配置素案 スケジュール

		R11	R12	R13	R14
1	朝 陽 第 一 小 学 校				<div>R14 朝陽第一小+黄金小 統合 (使用想定校舎⇒朝陽第一小)</div> <div>R14 大泉小+上郷小 統合 (使用想定校舎⇒大泉小)</div> <div>R14 豊浦小+湯野浜小 +大山小+西郷小 統合 (使用想定校舎⇒大山小)</div> <div>R14 羽黒小+広瀬小 統合 (使用想定校舎⇒広瀬小)</div> <div>R14 櫛引東小+西小 +南小 統合 (使用想定校舎⇒櫛引西小)</div> <div>R14 あつみ小+鼠ヶ関小 +温海中 統合⇒小中一貫校 (使用想定校舎⇒温海中)</div> <div>R14 鶴岡第五中+豊浦中 統合 (使用想定校舎⇒鶴岡第五中)</div> <div>R14 櫛引中+朝日中 統合 (使用想定校舎⇒櫛引中)</div>
2	朝 陽 第 二 小 学 校				
3	朝 陽 第 三 小 学 校				
4	朝 陽 第 四 小 学 校				
5	朝 陽 第 五 小 学 校				
6	朝 陽 第 六 小 学 校				
7	斎 小 学 校				
8	黄 金 小 学 校				
9	大 泉 小 学 校				
10	京 田 小 学 校				
11	上 郷 小 学 校				
12	豊 浦 小 学 校				
13	湯 野 浜 小 学 校				
14	大 山 小 学 校				
15	西 郷 小 学 校				
16	藤 島 小 学 校	<div>R11 藤島小+東栄小+渡前小+ 藤島中 統合⇒藤島義務教育学校 (R14 新校舎供用開始)</div>			<div>R14 大泉小+上郷小 統合 (使用想定校舎⇒大泉小)</div>
17	東 栄 小 学 校				
18	渡 前 小 学 校				
19	羽 黒 小 学 校				<div>R14 羽黒小+広瀬小 統合 (使用想定校舎⇒広瀬小)</div>
20	広 瀬 小 学 校				
21	櫛 引 東 小 学 校				<div>R14 櫛引東小+西小 +南小 統合 (使用想定校舎⇒櫛引西小)</div>
22	櫛 引 西 小 学 校				
23	櫛 引 南 小 学 校				<div>R14 あつみ小+鼠ヶ関小 +温海中 統合⇒小中一貫校 (使用想定校舎⇒温海中)</div>
24	あ さ ひ 小 学 校				
25	あ つ み 小 学 校				
26	鼠 ケ 関 小 学 校				
1	鶴 岡 第 一 中 学 校				<div>R14 鶴岡第五中+豊浦中 統合 (使用想定校舎⇒鶴岡第五中)</div>
2	鶴 岡 第 二 中 学 校				
3	鶴 岡 第 三 中 学 校				<div>R14 櫛引中+朝日中 統合 (使用想定校舎⇒櫛引中)</div>
4	鶴 岡 第 四 中 学 校				
5	鶴 岡 第 五 中 学 校				<div>R14 鶴岡第五中+豊浦中 統合 (使用想定校舎⇒鶴岡第五中)</div>
6	豊 浦 中 学 校				
7	藤 島 中 学 校				<div>R14 櫛引中+朝日中 統合 (使用想定校舎⇒櫛引中)</div>
8	羽 黒 中 学 校				
9	櫛 引 中 学 校				<div>R14 櫛引中+朝日中 統合 (使用想定校舎⇒櫛引中)</div>
10	朝 日 中 学 校				
11	温 海 中 学 校				

※地域での検討状況等により、統合が早まることも想定

4 地域検討委員会の設置について

1 目的

検討対象校の学区において当該学校の今後の在り方について検討し、鶴岡市学校の在り方検討委員会にその検討結果の報告を行う。

2 対象地域の範囲

検討対象校の学区を基本とする。ただし、必要に応じて複数の学区を一体とした設置も可能とする。

3 メンバー

検討対象校の学校運営協議会の委員を基本とし、自治振興会長等、PTA代表、就学前児童保護者代表、校長等をもって構成する。（事務局：教育委員会）

4 検討の進め方のイメージ

○現状・課題の共有	○アンケート調査の実施	
○住民説明会の開催	○委員による協議	など

5 地域検討後の流れ

- ①地域検討委員会・・・：検討結果を学校の在り方検討委員会へ報告する。
⇒R 9. 1～R 10. 3まで
- ②学校の在り方検討委員会：報告を踏まえ、「鶴岡市今後の学校の在り方についての計画（案）」を取りまとめ、教育委員会に提案する。
⇒R 10. 8頃まで
- ③教育委員会・・・・・・・・：提案を踏まえ計画を策定する。
⇒R 10. 12まで
- ④統合校各地域・・・・・・・・：統合準備委員会を設置し、統合に向けた検討を行う。
⇒R 11. 1～R 14. 3まで

5 学区の見直し(複数中学への分散進学の解消)について

1 複数中学への分散進学の段階的な解消の目的

- ・小中一貫教育の推進：小中接続の円滑化やカリキュラムの連続性の確保
- ・生徒の負担解消：少人数で中学校に進学することによる心理的な負担の軽減

2 対象校・スケジュール

対象校	現状	第3期での変更案
朝陽第三小	鶴一中、鶴二中、鶴四中	鶴一中・鶴二中に集約 ⇒鶴四中に進学する区域（泉町・若葉町・家中新町・馬場町）の進学先を鶴一中または鶴二中に変更
京田小	鶴一中、鶴二中	鶴二中に集約 ⇒鶴一中に進学する区域（安丹・中野京田・平京田・西京田）の進学先を鶴二中に変更
大泉小	鶴一中（学区外通学）、鶴四中	現状維持

3 目的達成に向けたステップ

- (1) P T A会長と進め方について協議
- (2) 関係者の意向調査（保護者アンケート等）
- (3) 関係者との協議
- (4) 変更・維持等の確認

6 第3期計画策定スケジュール(修正版)

	R8年度										R9年度												R10年度											
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
教育委員会				着手 教委報告	第1回教委報告	第2回教委報告										第3回教委報告												第4回教委報告	パブコメ			教委議決・策定		
学校の在り方検討委員会				第1回会議 9/29	第2回会議 10/29											第3回会議 (中間報告)											第4回会議 (最終報告)							
地域検討委員会						地域毎に内容 検討、委員就 任依頼																												
	各地域(各校)、1回から5回程度を想定 ※準備が整った地域から順次検討開始																																	
庁内連絡・調整会議			第1回会議 8/6		第2回会議 10/19											第3回会議											第4回会議							

各地域(各校)、1回から5回程度を想定

※準備が整った地域から順次検討開始